

3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2

雨月物語

上

特別
~13
4376
1

上田秋繁大人編輯

雨月物語 全部 三冊

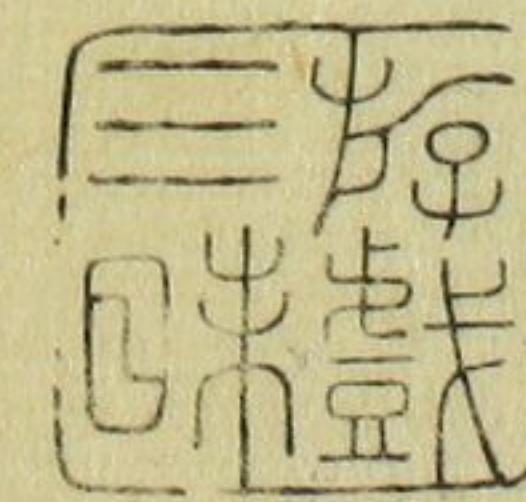
源氏書肆 文榮堂著板

川 深仲町通蛤町
瀬戸内樂燒卸
滿壽屋八五郎

雨月物語序

種子櫻山辯而三生煙火。朱
媛者源氏而一旦墮惡趣者。常
為紫所傷耳。然而蒙其之。孝齋
奇態。嘗笑逼真。俊昂氣勢。今讀
者心象洞然也。又欠鶴年。宜年
千古焉。奈高之故。腹之。陶然。漸

口吐出難能哉。我自以為枯淡。
男將讀之者。固當少復作也。是
可否。醜脣重鼻之敷。光明和洋。
子安善。而齋月猿肱。之右窟之。
編成以昇梓。題曰雨月物語。
ち薦枝晴人畫



雨月物語目録

卷之三

○○白峯

○○蘭花乃紳

卷之二

○○深草の宿

○○夢庵の蟹魚

○○佛法僧

○○唐え三



雨月物語卷之一

白峯

東坂乃園ちよゆる庭にてより。株あら山の茶葉尽くす
て。渓を馬めぬまつるは海也。不老のまし麗れ峰。淳鷗
ぐち。清江が園。大磯小つきの浦。くじら死鷗。おもむき
乃木垣窓の和ゆゑの舟。おとこ。お深れ簾。まよとま。
舟櫻。木舟の桟橋。せせらぎすねがさざれ。松西の園
お松尺半。やまと。仁安三年秋。彦うち羅波と絶
て。須磨内石の浦。か月と房に志がれ。おとく後波のま
尾坂の林とよに。おとく筋と極ひ。またをしき羅波
の聲もあらず。銀念珠。おとく。居すき。ありま

○ 吉候津乃金
卷之四
○ 始終乃曉
卷之五
○ 貪福禪
目錄終

同用

一

ちり白猿とて。新院乃凌りとて。おもて
あつをやと。十月からぬよ登る。松柏も奥ある
くあれあひて。まく雲乃鹿日ち小雨ればゆがて。
火の森とよ嶺の紀嶽背よ深年あちく千仞比肩度より
雲多あひれば。延尺きと薪火あく地ちあ。本立しげ
りよ間するふよ。土墩く積するがよ。石柱三かまくよ聖み
あらん山墓よとひもう紀うすまされ。やあきれこれあ
がた。秋よまだあつにんせりじ。紫宸清涼乃清社よお
詔恩。はうまし。近清院よ御りゆても。蘿姑射
の山。瘦れ林よ禁をゆ。思ひき。麋鹿乃よ政の

尼。能つて見る人。むかき。海よりれ。菊の下に。神がうれり。そ
ん。今も。万が家。乃の君。そぞやく。と。終全。君せ。乃業。と。よかの
おと。病く。も。持ひ。あて。あつり。尼。との。れを。持す。さうよ。
世。ひ。ち。つ。が。死。よ。思ひ。つ。ぎ。く。滅。み。死。あ。う。終。疾。供。遣。
あ。く。ま。う。を。ら。と。活。墓。の。前。あ。む。う。ある。石。め。上。よ。社。城。い。そ。
變。徐。よ。漏。し。つ。も。か。つ。お。よ。み。く。ま。え。ま。高。
松。山。乃。浪。の。ま。く。帆。を。せ。う。れ。く。君。へ。あ。う。ぬ。う。け。
様。な。多。次。は。意。と。あ。へ。う。ぞ。う。従。よ。ぬ。う。り。夕。ん。日。の。波。ほ。
よ。山。ゆ。き。夜。乃。あ。常。な。你。石。乃。は。床。ま。だ。食。い。と。き。
神。情。骨。冷。て。わ。と。も。あ。よ。凄。じ。れ。あ。ち。づ。向。日。を。切。う。
射。き。グ。被。と。射。死。り。ま。の。だ。あ。や。死。固。よ。う。ゆ。れ。く。明。う。
ま。も。死。よ。ま。か。く。方。位。く。と。よ。が。モ。眼。と。切。り。て。す。じ。

足りだ。身形は瘦まし人なり。背もく瘦むる。かねて
ちゑする衣は通紋もとをもど。あれよもひて立つて西行
ゆきより通ひの教師なれど。思はともうて。あよまつて
語と音よせり人よ。前にすみつて繋がりうてゆゑを
呑えうすなりや

松山の涙よかうしてう船ひやうじかくあはれふぬ
音くもまうではるよとゆゆよ新院の靈廟下に立つて
て。地よぬ御き滅と漏るよ。うりそていうよ。遠きをゆくや。漏
せと歎嘆。あひておはくや向くゆうて。今秋乃は施
ほり。たてまつ成。現形。ゆふもあらかくも時き。あく
ゆく。ゆうよ。漏す所忘しと。佛果圓滿の位よ
昇をゆと。情とうとく。殊き高新院。くと笑を拂ひ。

國すば。近來は世の丸ハ朕を事あり。生てあり。日より魔道
よあがずとがふけ。平治の乱と發テ先死て於朝家よ
崇とぞ。尼よくやづく天う下に大札と生ぜりんと。西行
け詔よ承とぞや。こ、涉すおれあらへばうけめらる
う。おもとよもも猶め。乃くえ兩もと。王道のそりへ。ゆ
らひませゆ。さうミヌ初の詔す。然も保元の清教を天の
神乃教ゆ。そりへ。も遠ぢとくおぼ立せゆ。又う
乃人總す。計策ゆ。詳よ告せゆ。と奏を。其時院の謀起
がち。せゆ。汝すけ。帝位も人の極あり。あ人道上よりれを
則も。天の命よ應じ。民の望よ順へ。そ是と付。抑永治乃
昔。犯さる罪もあきた。父帝の命ば恐れ。三度は群仁す
代と禱し心人懲諭きとつべうべ。群仁早世申ても。朕



皇子の重仁^{じゆにん}と國^{くに}あすへたものと。朕^{しん}も人^{ひと}も思ひしる
英^{えい}後^{こう}門^{もん}院^{いん}が姫^{ひめ}にましらん。四の宮^{みや}の雅^{まさ}仁^{ひと}又^{また}と墓^{はか}も
ゆき怨^{うらみ}すあすも。重仁^{じゆにん}國^{くに}あすへたもの。雅^{まさ}仁^{ひと}仰^{あお}げうつと
ねぞ。人^{ひと}の徳^{とく}をうらむ。天^{あま}が下^さの事^{こと}を凌^さえよ。かすひゆ
く久^{ひさ}帝^てれ罪^{ざい}をりし。されど世^よあすとゆくほくと孝^{たか}信^{しん}する
アモ。勤^{きん}起^{おこ}も出^でまつ。天^{あま}崩^{くず}をゆひくといつまであつむ
と。武^{たけ}きあらざ^{らざ}ば發^はせ。あうほくして君^{きみ}と併^{そな}む。天^{あま}は應
じ目^め乃^の望^{のぞ}みあす。周^{まわ}八百^{やほ}の創業^{そうぎょう}とぞりりのと。而
てあらべき位^{すわ}わる身^み。北^{きた}嶽^{だけ}ノ晨^{あさ}する代^よと取^とて代^{かわ}らん。
道^{みち}と失^{うしな}とふべうべ。汝^な家^{いえ}と出^でく俳^{はい}と嬪^{ひめ}。未^ま未^ま解脱^{げきだつ}
利^り總^{ぜん}ば預^{あず}心^{こころ}す。人^{ひと}道^{みち}とゆく因果^{いんざい}より入^{いり}。堯舜^{ようしゅん}乃^のそと
寂^{しづか}門^{もん}子^こ混^{こん}じて羨^{うら}み説^説や。と。詰^{つづ}あらうかよ。若^わをゆ。西^{にし}にい

忍^{しの}も也^もやく。社^{やしろ}城^{しろ}もみく。若^わが岩^{いわ}をゆふも。人^{ひと}道^{みち}のて
わ^くとやく。歟^が葬^うとの^のれゆも。走^はく辰^{たつ}といふまでもあ
らぞ。嘗^{なま}められ者^{もの}譽田^{たかだ}の天皇^{あまのう}兄^おの皇子^ご大衡^{おほひ}麿^の王^お城^{しろ}おきて。寧^な
乃^の皇子^ご堯道^{ようぢう}の王^おと日^ひ隔^は太^お子^ことあゆ。天皇^{あまのう}崩^{くず}御^ごひて。天
父^お弟^お相^{あわ}譲^ゆ位^{すわ}。位^{すわ}昇^{のぼ}りゆかむ。三^{さん}とゆれりて。も。因果^{いんざい}べく
煩^{うき}じゆく。也^も。葬^う道^{みち}の王^おゆく。憂^{うき}ひして。豈^か々^く生^はて天^{あま}が下^さ
て見^みの皇子^ご立^たす。ゆく。寶^{たから}筭^さを断^きとゆく。羅^ら事^{こと}く
忠^{ただ}とはく。人^{ひと}愁^うす。堯舜^{ようしゅん}乃^の道^{みち}とゆく。本^{もと}は儒教^{じゆきょう}
と。學^{がく}え。考^{かう}王道^{おうぢう}の補^ほとす。也^も。葬^う道^{みち}の王^お百濟^{はくざい}乃^の王^お仁^{じん}城^{しろ}
秦^{せん}をとゆく。城^{しろ}を先^{さき}たんを。じ。足^{あし}がれ。王^おの心^{こころ}で。即^{そく}漢^{かん}土^どの聖^{せい}
法^{ほう}もゆく。又^{また}周^{しゆ}の劍^{けん}。武^ぶ王^お一^{いっ}ま^まび^び怒^のりく。天下^{あま}の民^{みん}を安^{やす}

也。臣と君は誠ととひへうべ。仁と誠と義と誠む。一丈内
討を誅するありとひす。孟子とひ書はありと人方せよす
候る。されば漢土の書た經典史案詩文すつちすゞく度きがふ
き。かく孟子の書たうりゆもと曰かにあらべ。け書と讀てあこ
う取た必しも暴風すあひて沈没すとひて。せき城いりあら放
てとすよ。我國を天照すおほん神乃開闢あらめより。日の
爾乃大王絕え奉るをき。がくは賢者を人故仕へまじ。未だ世よ
神猿が集ふる足りぬとひ。百千鶴びの神の
懇すをゆゑ。神風と起て船と覆しゆとす。されば他國
の聖の教もあれ國土よきちかくぬとすくねうべ。且ちよ
すいとさむ。足り牆生廻ぐとも外の侮ア紙禁ざよど。うちよ
骨肉ア愛とわすれぬ。りすまく一院落坐ひて。寝みまは乳膚

もひまごとくをとたまえぬよ。清海がびうをうれやう立て寝ね
とあそびゆふを。不孝の泥うれより劇に死んでし。天下、祚に
寢なり。乃つうづくがくと寝ゆも得べうねとわうかみと
よ。室に王の即位を民の作ぎ望むふす。徳と布和義
施し絶むで道をくわざ紙りく代と乱しゆめ。まふ
まく君が慕ひも。まも忽悲歌とわりて。かきとよ遊み
まく。いふより例を死刑と得ゆみて。がほ鄙の因せ主と
なれゆめり。ゆづるに驚くはまゆめり。津止よかへ
らをゆまんと願ゆたけき。齋文也れなれと。ちがひてかく奏り。院
院と嘘うづをゆひ。今幸と呼べく泥沼とす。まわらかぬよあ
ど。されどいたせん。お内侍よ縫室と。うきが松山世家よ因め
られ。日よ三さびのき腰もくとより。まいとつうふる者もあ。

只天とよ死アマミの小夜シナヤの枕カタマリよおとづきを伏ハリケ。郊ヘイよりんヘイとが
うく。嘆カクひふをはれ湖カマツキよあぐも。心ハラべて種ヒルムとやる。鷺サギの
涙カミツレも白くうるよ。都カミも還カミべき期ヒメもあらねば。定カミツレで海シマ畔ハタケ
の鬼カミとかんすんカミスン。かくちう後世アフタセのうたと。又教カミツレれ大乘ダモン經エイジ
うしてくるが。圓鏡カクミツク乃カミもうえぬ義議カミギよしゆくもかわ。せん
てハ筆カミ乃カミ略カクをう紙カミ濟カミツク中ウチに入カミすと。仁和寺ニンワツジの清室セイジツ乃カミ許カミツクへ
經エイジよそそみくカミツクおこすと。

対カミツクすを詠カミツクもあらよかよども身ハムシハ松カツラみよ高カツカとのみで。さく
きうたが納言カミタガノミ信西シンシをつひくとて。あ哭カミツク咽カミツク乃カミ心ハラと聲カミツク
屬カミツクあり。かくすにうすだカミツクだうみぢんカミツク。かくへり倭漢土カミツク
ともよ。國カミツクとあくをひて足カミ才カツ敵カミツクとなり。例カミツクを聯カミツクうすねと。源カミツク宗カミツク
きカミツクすれと思カミツクす。無心カミツク極悔カミツク乃カミたゞく寫カミツクぬ。清經カミツクを。

いよゆか者カミツクありよ。親カミ一カミ城カミ議カミえき。令カミすも半カミづいて
筆カミ乃カミ流カミツクす。納カミツクゆもね廢カミツク也カミツク。今を薦カミき響カミツクかうれ。不カミツク捨
け經カミツクと魔道カミツクを回向カミツク。恨カミツクともやかんと。一カミすらカミおくり定カミツクく。
指カミツクと破カミツクり血カミツクとりく。猶文カミツクかうり。經カミツクもとに志戸カミツクれ海カミツクよ沈カミツクて
し候カミツク。人カミツクも見えず深カミツクく。閉カミツクありく。かくよ魔王カミツクとぞくべき
大能カミツク能カミツクちうりカミツク。ちく平治カミツクノ礼カミツクて生きぬ。まづ信頼カミツクがう死位カミツク
と望カミツクむ。禱慢カミツク乃カミ公カミをよく義物カミモノがてうり。かみ義朝カミ了カミツク
悪カミツク欲カミツクす。父カミれ乃カミ義カミとちづけ。胞カミ乃カミ武士カミハ皆カミ。眼カミ方カミと令カミツクと
し。他カミ一人。朕カミようを。撫カミツクお朝カミツク。勇猛カミツクな義忠カミ政カミが軍カミ死カミツクよ。羸カミツク目カミツク
と死カミツクした。西南カミツクの國カミツクよ燒討カミツクせし。白川カミツク乃カミえと歎カミツク。如意カミツクが寂カミツク
嶮カミツクれ。かよ是カミツクと破カミツク。或カミツクハ山賊カミツクの椎宋カミツクを。おほひて。而カミツク爲カミツクを凌カミツク。/
絶カミツクす捨カミツク。しげ將カミツクす。若カミツクら。かよ。皆カミ義カミね。が。謀カミツク。計カミツク。承カミツク。

國やんへ。うしが報ひば虎狼の心は障り。信頼が深
る。謀はぐとせよ。地祇は遂不犯。まよ喰ふは清威よ遂
する。且又のみ義が弑也。報偏りく。家父子に謀られ。天神
乃崇と慕りしものよ。又が訥言伝西を。常に己をもつてす。人故
拒む心乃ちうぬそれとさうふく伝頬。義がう讐とちせり。モ
縁す家と生そ。字治山乃坑は窪ヰと。もく探一獲ら至く
六糸の糸は糸首もあれ。經河え。也。使言の罷と治り。あり
そしがあまり。慈保乃夏。い美福門院。食と宿。也。寛め矣。
忠通と嵩りく。朕も其秋葬さりしかど。終冥火燭す。而處す
浦。浦は大魔王と。かく。三百余頃乃巨魁とある。朕も
ぞぞれ。かととある人の役と見て。もくして禍。也。世に。濟と號
てハ亂と。養さ。ひ。只達巣が人果大。也。親族氏族もくく
一

き官位よつゝやう。おのづゆ。ある國政と。狹隘よとのへどを。
寧、威、忠、義と。のべ。浦を放ひ。まぐ。朝ひ。うじ。波々。平氏も又之
かじ。承仁殿よつゝ。めりほどと。終よ。朝。よべた。だと。まく。若よ
いた。恐。く。やえ。西。り。君。かく。すゞ。魔鬼の惡業。よあ
ぐれて。佛土よ。億万里。隣。を。ぬ。て。び。い。も。と。て。只。殊。そ。む。う
ひ居。う。ひ。時。よ。峯。谷。ゆ。き。う。動。ま。く。風。義。林。と。僵。も。う。く。
ゆ。石。室。よ。巻。上。る。尼。く。一。段。内。院。次。君。う。膝。下。う。燃。上。る
て。山。も。谷。も。巒。の。く。山。す。か。な。う。光。内。中。よ。つ。く。造。瓦。瓦。と
足。あ。て。す。も。に。朱。瓦。を。だ。る。說教。よ。荆。の。髮。膝。よ。か。あ。す。で
札。と。白。眼。と。吊。あ。げ。焚。き。唇。と。う。げ。よ。づ。ぞ。ゆ。清。衣。は。棕。色。
乃。ひ。う。き。び。う。た。毛。足。の。爪。ハ。歎。か。と。生。の。び。て。さ。あ。づ
魔王。乃。形。あ。腐。く。も。お。き。め。し。空。よ。む。う。ひ。て。相。摸。く。と。呻。セ

終。あと善く。萬代くのむ。御あり。前よばて詔張。院
が乃代多よぞみあひ。ひそもしく重威。が命と集く。雅仁清盛
とす。一冬。代多とて。上室の幸後。いまどあ。重威が
忠信ちうき。かげて。今すり支干一周。紙筋を。重威。が命。都既
處。あん。他死せよ。一族の幸後。は附。よ亡べ。院。久経。拍て。格を
失。か乃進言。歌もぐそ。前の海。よ歎。よじと。清都。谷翠。經
清。よき。よくもあ。魔道の清す。起あり。歎。よく歎。よ
よ。よ。君。若。年。の。麻。と。も。からん。も。ハ。何。よ。う。ハ。ゼ。ん
利。も。勝。也。も。か。ち。く。ね。り。の。城。と。心。あ。や。り。く。さ。う。か。よ。吟。乞。
ば。よ。と。す。す。り。く。蟲。さ。セ。あ。よ。や。う。な。り。す。き。面。も。御。く。ぎ。
御。大。も。や。う。き。く。済。ゆ。ば。よ。つ。ひ。よ。統。體。も。か。れ。る。く。る。ざ。

足。え。を。な。れ。ば。代。多。し。づ。ち。志。そ。ん。路。も。う。十。月。ひ。す。り。代。月。た
筆。よ。か。う。れ。て。本。の。立。や。と。八。あ。や。か。見。よ。義。高。よ。や。く。ぬ。か
や。ほ。ど。か。く。い。あ。れ。め。乃。内。ゆ。室。よ。躬。引。内。高。あ。り。引。く
ゆ。ま。れ。が。す。く。金。剛。經。一。卷。供。養。一。た。て。ま。う。り。山。と。で。ア
て。高。よ。傍。也。聞。よ。經。教。い。て。も。と。思。ひ。ゆ。平。治。の。礼。より
ち。を。く。人。く。の。消。息。年。月。け。坐。と。ひ。か。れ。れ。も。ぼ。く。悔。て
人。も。か。う。せ。き。其。後。十三。年。と。殊。く。活。業。三。と。れ。秋。平。治。宣
感。病。よ。便。り。く。世。兵。逝。り。を。平。相。國。入。遣。君。紙。う。み。と。多
羽。ノ。離。宮。よ。宿。あ。て。す。る。が。き。ひ。く。被。承。の。茅。代。宮。よ。國。め
た。く。は。つ。る。頼。朝。东。同。よ。魏。ひ。お。こう。義。仲。北。雪。紙。う。み。と。出
る。及。び。平。氏。ノ。一。門。と。く。西。の。海。よ。漂。ひ。遂。よ。後。波。乃。海
志。戸。ハ。傳。よ。ひ。う。く。武。き。は。と。り。の。と。も。お。ほ。く。龜。魚。の。ち。く。に

葬られ。赤間ヶ関壇の浦よせよりく。初夏海よアセたまむ。
軍將ももの多く亡びます。病て死もござりしぞ。おも病く
ゆき活柄なしけど。其後は廣を王りて國を。母妻紙教り
あて。後威を崇めりあそてすら。かの國よかよ人々。必幣以て
おと齋ひまつべき神なり。

糸巻乃約

糸巻ある事乃折。家園よ種よとをうれ。文アハ經歎の人と
結ぶとあう。楊柳威モやすとも。秋乃初風の吹ふ耐ウヤ。
絶命人ハ文アやすしく亦迷う。楊柳いくば喜よ
盡也。絶命人ハ絶命也。日也。樹磨の國が古川
歌メ文折たゞとテサカ士あり。清貧と想ひて。友とする者。

外もまで洞庭乃紫煩と厭。か老母あり。孟氏の操よゆづ
らを。常々纺績紙車といた門があろざと助く。其季女
をもゐる同ド里の依用氏よ喜むる。ば依用が家へ頗富さ
うえて有爲う。丈母母子の賢き成務。娘子と娶るもて親族と
き。屢幸よ托くね此物もとども。口腹のあよ人と累さんや
よく教て歌うて外。一日た門同ド里の何某が津よ訪ひく。
い年今れおがりして與ある財よ。壁と漏て人の痛楚がいと
もあらぬゆえんした。まに約ねるよ。あらうと。言ふと。す。西之國
乃人とたゆむ。付かひよ。海也。よ。にて。一島がおうやい士家
の風あく。卑一がねと。下すに。追ゆく。せよ。其夜邪
被虜。起附も向ハまやく。ねばいと。と。二日四日え
已。ぬど。何地の人ともほてつゆく。ねよ。主も思ひ。づけぬ。邊

生く。あち感ひやうぬとよ。た門にて。がうにわざりよこを。
あすれん安うらぬもする事けあれど。痛苦の人々も多べ
き旅行をみし疾とまひゆゑも。またて胸痛むねいたくおももべ
重ゆうとし者もとよど。あすとよだえも。瘧病らびやうびも人を過はりお
とゆかるう家幸さいこうもあてか。こよひりへ立よみて房と
害がへゆともうれた門矣て。死生食あり。何れ病り人今
侍べき。あすの爲俗くわじゆ乃あそぞよく君們きみをぞく次と戸と
御ごて入りも五人缺くずた。あすドアシが、かづりしよ邊へを。侮むれ人
毛けあドアシ。病源びやげん源げんとぞく。面おもて炎ほよ肌はだ熱ぬく瘦やせ古いき食く乃
うへよ廻まわ所しょを。今いまうしげよた門とぞく。湯ゆがくわ敷のしきと
よだ門もんちくより。去憂さゆゆくをされ。必極ひきつひまつすヒと
て。あすドアシ。業わざなみ。自方じほうと業わざ。うう業わざ

巧工こうこう也。お粥おゆとぞく。病びやく者ものとよ胞いのちて。汝なて
捨すか。死死あり。あき。がれ武士士官た門もんが愛憐めいしん。乃おの懃うなづきよ洞ほらと流
して。かくまま深ふか密ひそ。死死すもほんよ報ほひああ。ま
えとよ。た門もん休やすて。うう死死とちかゆえあひ。れ瘦そまハ日ひ数
わ。そほくとゆをゆを。要い食くとああ。官くわん門もんよ脩しゆて。つつ
ままよよ。と。实じつやうて。約あくひつ。もんばりらゆく助すけりよ。病びやく激
減げんじく。あち済すくく。おほええいた。あす。いも念ねんひよ。何なんととう。
た門もんが詠うた。とたぶと。も。生業うぎと。あ。ひ。已いが身み乃のよ。不ふも
かうて。ひ。故ゆゑ出雲いずも國くに松まつの。よ。せ長ながて。赤宍あかひ家け。鳥とり。不ふ者
なる。がうげて。無む書しょの。旨じと。察さ。に。す。而は。富田とみたの。株主かぶ主しゆ。詔せしめ拂はら
詔せしめ拂はら。吉兵きち郎ろう。と。と。お。す。び。か。り。よ。近ちかい。の。傍そば。本ほん氏し。保ほ。富とみた。山さん
乃の役え。よ。え。も。れ。て。か。乃の飯めし。よ。さ。る。う。も。前まへの。珠じゅ主しゆ。尾お子こ。經き。久く。

中黨とかすして太二十九月の夜不敵よ殊と棄う。掃討
敵も討死ありきり。とより重みハ仰く本乃お國もく。壇上ハ
お後代されハ三派ニ力臣と助を。絶えと亡ぼゆとす。しれ
ども氏族も外勇也。内怯する意將也。爾巴果矣。うりく
吾故國よ還ひ。故君不ふ承く居じと。己う身ももと竊
て國よ還る。故よ。疾よ。かくも。思ひ。うけず。師と。勞。し。そ
れ。方にあまう。恩よ。そ。名は世の念と。心報ひ。あく
あんた門よ。アラホ。故恩び。もと。人なりの心。あく。され。
厚き御代と。ひき。故。う。お。ま。に。ね。ま。が。平。生。よ。邇。く。で。す。に
向。御。代。う。そ。日。は。故。う。ま。に。ね。ま。が。平。生。よ。邇。く。で。す。に
タ。故。日。は。た。門。ハ。故。友。の。あ。う。や。く。日。夜。文。う。う。地。ざ
です。故。赤。宍。も。諸。子。百。家。の。奉。お。ろ。く。が。り。出。て。向。ま。ま。る。

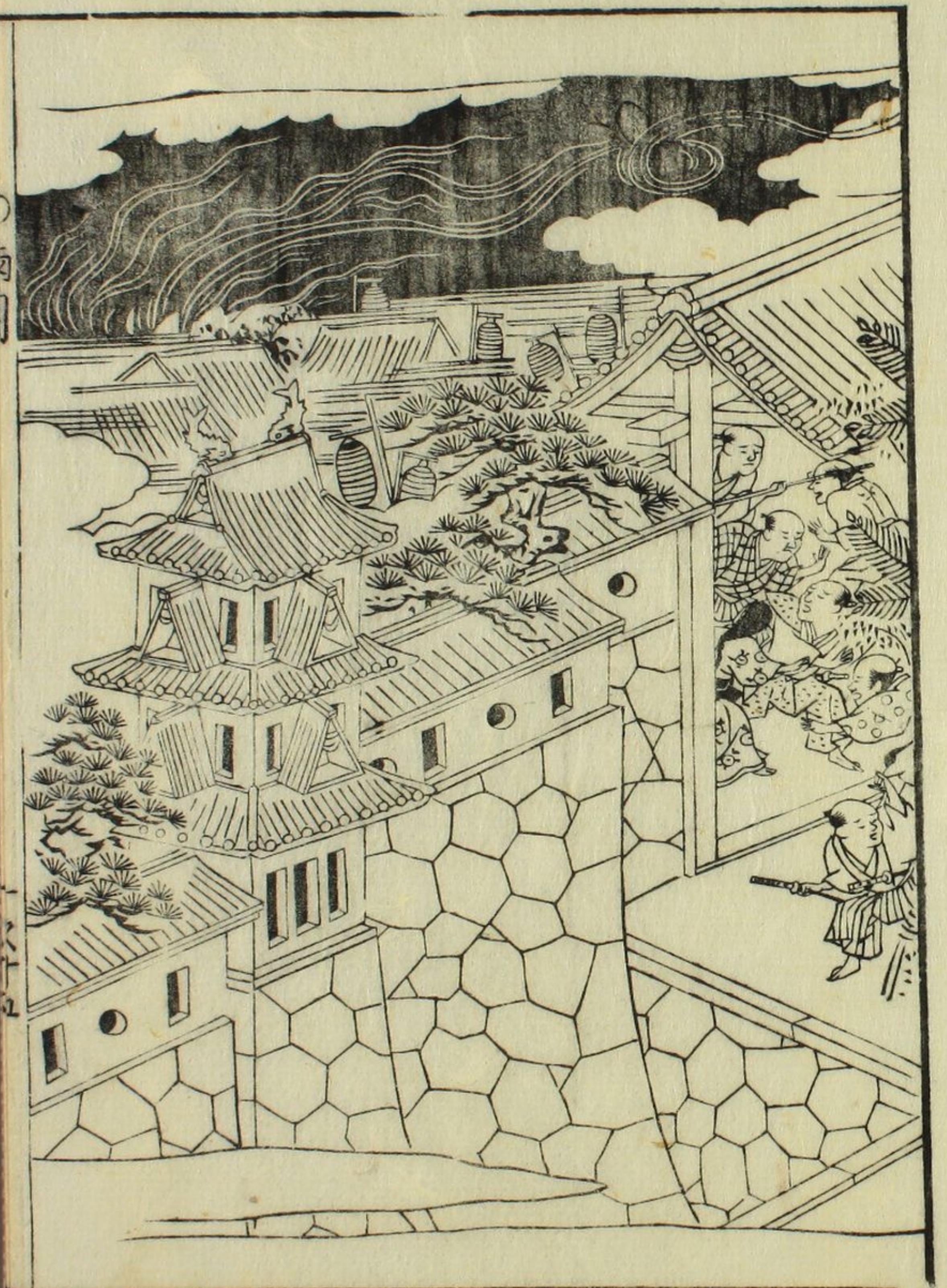
公勲々。無様。乃。わ。り。ハ。も。く。し。く。ゆ。え。り。る。か。う。こ。で
相。とも。に。て。よ。む。も。く。か。う。然。う。め。も。び。く。絶。よ。見。才。の。監。公
良。赤。宍。又。采。や。で。れ。を。伯。氏。さ。き。礼。義。公。ま。く。た。門。よ
じ。ひ。て。よ。君。父。母。よ。離。さ。ま。く。い。も。く。賢。ホ。ガ。老。母。ハ
歸。宿。母。な。れ。あ。く。よ。お。も。た。て。ま。ん。と。孤。獨。ホ。老。母。あ。れ
て。よ。き。老。母。孤。獨。ち。ん。や。た。門。故。ひ。よ。場。ぞ。母。さ。る。者。若。よ。孤
獨。と。孤。獨。信。あ。る。言。紙。告。す。也。故。も。延。す。ふ。と。ほ。ひ。て。家。子
帰。る。老。母。よ。お。こ。び。途。へ。て。君。子。不。力。も。く。童。よ。而。附。す。あ。ら。び。も
赤。宍。お。そ。て。不。大。丈。丈。ハ。義。と。享。す。伯。氏。と。故。と。施。終
君。い。ま。母。公。の。無。を。う。す。り。賢。ホ。乃。故。と。納。す。何。の。望。う
え。る。可。べ。き。と。お。こ。び。う。か。み。つ。又。日。來。と。お。ゆ。く。る。き

の夕未候むと夕一尾上の花も散らしく。涼き風にすら浪
よ。どもでちを死夏の初よりぬ。赤穴母子すゞひて。若近は
と遙ありしも度。みの勤静と々んわなし。一び下ゆくやう
て席あす。蔽水の奴よ。恩ばせり。たてあり。今めそしと
残とす。た門ひ。アシテ見長つり附より席をまへき。赤穴
ゆ。月日ハ逝ヤヒ。おぞくともけ秋、色さす。た門云。秋ハいつ日
と窓くわがまや。詠よも給一更。赤穴云。至陽の佳節祭りそ
歸ある日とす。た門ひ。足長必は日祓あらまりゆ。一枝乃
季花よ。薔薇を祓く物あまんと。互よ精祓はうそ
赤穴ハ西よ席をう。あくあれ月日ちるく縁ゆ起て。下枝の茱
萸也づれ。極ね乃母と薦替ひや。九月すりすりぬ。九日ハいつ
あとも蚤く起坐。まの食れ席拭をひ。萸菊あら葉二枝

三枝小瓶よ。拂。囊詰むをく。酒飯の役と。老母云。かうハ雲
峯の圓ハ山岳の果よ。わく。あよハ百里と隔つと。やハ。笠を
む定か死ふ。其亦ハ死尽てもやすも。延うじ。た門云。赤穴ハ
信あ。武士されば必約と。説うじ。モノとぞくあたはし。がん。思
えんとぞれ。うきて。美酒と。詰。鮮魚と。牢て。厨。傳。け。日や
天晴。千里に。ぞ。うち。も。ま。枕。旅。ゆ。人の群。く。が。う
ゆ。ハ。夕。の。詰。集。が。す。見。入。き。山。度。の。商。也。よ。見。徳。と。べき
祥。よ。見。と。さ。半。ら。ま。り。武。士。サ。あ。ゆ。り。せ。は。ド。出。立。かる。日。和。
が。ぞ。う。よ。ほ。り。の。詰。め。る。よ。り。詰。り。と。先。な。を。こ。の。お。び。ま。半
窓。け。門。の。詰。り。ハ。返。き。あ。き。男。ハ。却。わ。法。し。て。詰。お。ほ。く。賣。や。を
と。す。と。よ。歎。の。よ。と。や。く。附。小。豆。詰。よ。室。津。み。く。り。や。よ。
を。あ。う。た。ウ。よ。び。そ。セ。ゆ。と。漫。よ。ゆ。り。し。の。く。ざ。り。と。思。へ。だ。これ

ほゞれ渡アハ必トビテ。る憲アヒト。魚アガハ。鳴カクル。萬ヒキ。ゆマサヒ。
ゆマシム。すミ。ひハジ。ぐアシ。くヒ。口トモ。男ヒト。腹ウラ。ざシダ。よヒ。死ス。ま
大オホ。眼メガチコ。もモ。なナ。うウ。と。若ヒト。鞍アシ。おオ。手タマ。く。追ツ。り。て。づ。年ヒ。時ヒ。も。で
かカ。ぬヌ。きキ。なナ。じジ。の。つ。人ヒト。ハハ。本ヒト。渡ス。西シ。よシ。沈シタ。む。日ヒ。よ。宿ス。急ヒヤク。星ヒツキ。
せセ。う。げ。き。ま。旅リ。居リ。た。も。外ヒタチ。方カタ。の。も。ほホ。り。れ。て。心ハ。辭ハグ。さヅ。やヤ。老ヒト。
母ヒト。た。門ヒタチ。を。よ。び。て。人ヒト。の。ひ。代ヒタチ。秋ヒナ。ま。を。あ。づ。も。兼ハシメ。也ハシメ。衣ヒタチ。を。タタ。よ
り。く。か。ん。帰カム。そ。う。信ヒトシ。す。わ。バ。室ヒタチ。を。内ヒタチ。に。う。つ。り。ゆ。く。とも。行
き。つ。怒ハラハラ。べき。へ。そ。叫ハラハラ。け。り。て。又。望ハラハラ。月ヒツキ。と。行ハラハラ。べ。ー。と。あ。た。否ハラハラ。で。く。
母ヒト。と。す。つ。と。前ハラハラ。み。叫ハラハラ。け。り。り。や。と。た。れ。外ヒタチ。よ。出ハラハラ。く。と。を。じ。銀ヒタチ。
河ヒタチ。新ハラハラ。ま。え。ぐ。よ。冰ヒタチ。稀ハラハラ。松ヒタチ。の。木ヒタチ。休ハラハラ。く。拂ハラハラ。ま。た。朝ヒタチ。ち。る。犬ヒタチ。の。亂ハラハラ。
移ハラハラ。す。わ。り。浦ヒタチ。浪ヒタチ。の。音ヒタチ。あ。れ。た。も。ま。す。や。う。あ。り。月ヒツキ。の。光
も。山ヒタチ。際ハラハラ。よ。法ハラハラ。く。な。れ。ば。今ヒタチ。ハ。と。と。戸ヒタチ。と。開ハラハラ。て。入ハラハラ。と。き。た。と。で

看ハラハラ。お。ぼ。絶ハラハラ。する。魚ヒタチ。新ハラハラ。中ハラハラ。に。人ヒト。あ。く。風ヒタチ。の。ひ。あ。紙ヒタチ。あ。手ヒタチ。と。尺
也ハラハラ。赤ヒタチ。宍家ヒタチ。を。驚ハラハラ。踊ハラハラ。立ハラハラ。あ。ち。く。小。水。發ハラハラ。く。より。ゆ。く
今ヒタチ。よ。い。う。ね。る。盤ヒタチ。た。う。え。で。赤。冗ハラハラ。立。れ。う。れ。ま。い。ざ。立。也ハラハラ。
不。幸。れ。ど。只。驚。起。て。わ。が。も。い。も。で。わ。る。た。門。前。よ。そ。み。く。南。八。窓。
乃。下。よ。ひ。入。社。よ。は。づ。つ。や。足。長。脛。あ。も。あ。と。れ。生。が。り。し。よ。老。母。
も。行。う。び。て。壁。了。れ。と。脚。取。り。と。腰。取。り。と。腰。取。り。と。腰。取。り。と。腰。取。り。と。腰。取。り。と。腰。取。り。と。腰。取。り。
赤。冗。又。冗。と。擣。て。豆。う。れ。も。足。よ。お。も。い。も。で。ぞ。わ。る。た。門。云。既。よ
夜。と。緩。て。手。め。よ。ひ。も。倦。足。も。勞。也。や。ベ。ー。幸。よ。一。杯。と。酌。て
歌。息。絶。と。く。活。活。わ。て。わ。下。物。と。列。祝。く。す。む。た。赤。宍。神。祇
り。て。面。と。掩。ひ。正。奥。ひ。と。釋。放。ま。仰。り。た。門。よ。井。向。の。か。を
歎。も。た。是。が。れ。も。已。ぐ。か。う。、。や。ミ。ゆ。て。ち。く。通。赤。宍。於。差。も
せ。ぞ。也。虚。と。つ。だ。浦。幸。よ。あ。き。ひ。賞。才。が。信。あ。食。應。該。



かどいきじべにとくわらひ。歌くよ泊あられバ。寔とりて寄る
なり。必一も亦と候ひを。昔も陽世の人よりば。きくお祀靈
りゆくよ形と見えつゝせり。た門大は葬紀と見る。ゆゑにこの
事ゆき死のり出ゆるや。又よ後ともおほえゆゑど。赤穴より。賢
房とゆれて國よぐり。國人たりて經久が勢ひよ服る。始え
治の恩と顧るゆれ。後方々赤穴丹治田乃株より。成
程のよ利害と詮く者。經久は見えし。彼よモ泊と容
て。づく經久があを取取した。美丈の敵人よ勝れ。すく士
卒と召練とども。脅と用うるよ旅鬪のんおほく。腋心爪
牙の家代子か。永く居て益をき思ひ。賢才が葉
花の約あるをかづく去んとすれば。經久怒る意あり。く
丹治よ令し。若紙大塙の外よ毛をだして。遂よタヌよひし

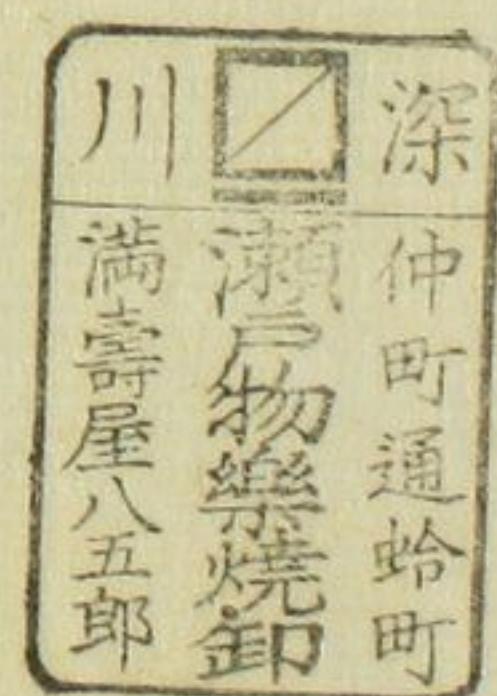
むけ約よたゞかのあうだ。賢才君と仰めとりせんと。ゆくもう
ゆく沈みども遊。そよ方か。いかへ人のよ。人一日よ千里と
ゆくと仰くだ。魂す一日よ千里ともせどとばとうて思ひ
出。まがりふよ伏。今夜強風よ。あくちるく。あくまぢ
乃約よ赴く。ふとあられミ。ゆとひをもひて洞見たゆるが
や。今へ永きつれさう。只母公にすくはうせよとく。就か立
と乃。ぐかき消て。たえどうにゆる。た門焼忙とくとくとれた。
ゆよ。軒を放そ。大よ突く。老母同あ。葬うだ立て。た門がある
西城又金。バ。社上よ。湯瓶魚盛。よ。四どもあまた列べる。中
よ。外側を。立紙いをさうく。枝起。くいたとくとく。只智と
唇くほくゆくに言ひし。老母向て。あ。伯氏赤穴が約よたゞ

と答へと仰へ。内門をへりあらにとて言ふうんのば。汝うく
までとさきも懲なるかとつま説ふ。た門前までし。兄長
今秋まわら約す情ある。酒肴どりそ。庭より再三辞めよ
え。きづくいやうまく約す旨くひゆゑよ。自刃又伏て詔牒
百里であるといひて見えどきりぬ。それかまうだれハ母の眼紙も
發る。うたてあり。只一粒と済然と呑入を。老母りよ。
牢裏は繋うそ人ハ爰よ。叔子と以てえ。渴きもあわせ
爰よ懸あ紙飲とい。汝も又くるむる。よしと辞む
べとあれど。た門前紙擱く。すとて爰せ正されよあくび。
兄長ハうきにとれ。又却と放て哭倒る。老母も今
ハ歎息。お叶て生夜ハ哭あつね。ゆる日た門母とおしま
ひ。君初生紀より身と輪異よ托よとど。國よ忠義内守え

かく。家よ若信紙つくをしてひだり。後よ天地乃あひよ
生す。アミ。兄長赤丸ハ生と信義のあよ徳る。小弟多より
出雲よ下モ。せりくハ骨と筋もく信紙食うせん。云う聲紙保
持く。あらぐく暇とゆべ。老母云。君哭かこよ去ともあく
帰きて老がふと体りよ。承く送まりくくふと齋き日とあ
きとぞれ。た門りよ。生ハ涙ちよ遅れどく。因よゆべよ定先
かくとも。やうく帰りあはせじとて洞と掘みて家と生。作用
民よゆれ。老母れ父抱と若よあつへ。出雲の國よほしき説
ふ。れて食紙思ひ。をまた衣紙もすれどく。すとおもを差しも哭
あつ浦。十四日經く。又田乃大塚よい。又。先赤丸丹治う定
みよまく姓名とりてつひなるよ。丹治近へ清じて。翼あるね乃若
よむ。いふ。いふ。あらむべき御前とあらうに向ひ。た門

よ。士ある者を富貴消滅乃事ともに福走るべし。只信義と
りくす。伯氏宗室一門の縁とおゆふ。じめき魂叶百
里とあるは難ひす。而後と遂くあふがりす。君主ふ不
よつて士は弱ひあらまき者あり。孙文公節うよ言へ語う
し。若魏乃公叔寔の娘よ姫うよ。魏王之がうよゆうてく
ひ城うつも若々も。あ達べうよぞれを仰うだ彼然々。社稷
ときしやんや。君主に歎と達せとあるよ。叔寔父商鞅年比
と六と奇也。王あけ人と用ぬ能うべ。ハクレと教へても
境と争とをうち。他の國よゆう。一やど必ず後の禍と見じ
と。若よ歎へ。又商鞅と私よまひき。君汝とどうしをども
王。许さではあれ。用ゆどハムテ。汝と害しゆとぞめ。
矣。、
矣。、
矣。、

経久けす。試作へて。兄弟信義の號をあもれ。た門が
路筋も強く。遂せばとなり。酒糟屋の人と文うりハ繰べ
却次とす人



兩月物語一之卷

